



WWF® *for a living planet*®

カーボン・マーケット・メカニズム に関する結果と今後へ向けての展望

コペンハーゲン(COP5・COP/MOP5)報告会

2010年1月21日(木) 総評会館201号室

WWFジャパン 気候変動プログラムリーダー 山岸 尚之





概要

1. 基本的な考え方
2. 国連レベルでの議論の概況
3. 今回の会議の結果
4. NGOが重視したこと
5. 特筆すべき動き
6. 今後の課題

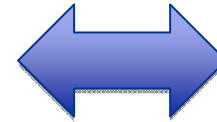




1. 基本的な考え方

■ “メカニズム” とは？

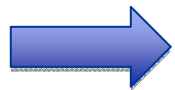
- (国際) 排出量取引
- 共同実施 (JI)
- クリーン開発メカニズム (CDM)
- + α (セクター・クレジット・メカニズム、etc ...)



技術、適応、資金・・・
様々な分野で「メカニズム」という言葉は使われる

■ メカニズムは役に立つのか？

- リスクがある ... 抜け穴 / 様々な悪影響
- 民間が直接的に関与する仕組み (= 民間投資を促進)
- 途上国の削減にインセンティブを与える



健全なメカニズムであれば役に立つ





今日のポイント

■ 大決定無し

- コペンハーゲン会議では、良くも悪くも大きな決定は(特に将来については)無かった

■ “だから”不安定

- 「決定が無かった」という事実そのものが、メカニズムという仕組みには不安定感を与える可能性は大きい
- ただし、既存のメカニズムの存続自体に反対している国は無い

■ 新たな課題

- 新たな課題も浮上してきた

■ 核となる議論の確定とオーバーラップ

- どうやって核となる部分を確定し、かつ、様々な分野とのオーバーラップをどう整理するのが課題





2. 国連レベルでの議論の概況

3つの分野

既存のメカニズムの
改善・変更



既存のメカニズムの
将来



新しいメカニズム



議論の場

COP/MOP
SBSTA

AWG KP

AWG LCA

コペンハーゲンで、全ての詳細ルールが決まるとは誰も期待していなかった。



3. コペンハーゲン会議の結果(1) 各議論の場での結論

COP/MOP ・ SBSTA

- **紛糾した論点は先送り**: CCS、標準化されたベースライン、枯渇した森林 (forest in exhaustion) 等の議題は事実上の先送り。CCSおよび標準化されたベースラインについては、**3月22日**までの期限で意見募集
- **地域分布問題に一定の成果**: プロジェクトの件数が10件未満のホスト国については、いくつかの優遇措置がとられることが決定

AWG

KP

- **交渉は決着せず**: 交渉中の交渉文書では、ほとんどの論点について両論並記
- **代表的論点**: CCS、原子力、追加的な吸収源活動、標準化されたベースライン、地域分布やアクセスの向上、割引率、補完性、etc

AWG LCA

- **交渉は決着せず**: そもそも「新しいメカニズム」は必要かという点で議論は紛糾



3. コペンハーゲン会議の結果(2) コペンハーゲン合意の中でのメカニズム

第7段落

7. We decide to pursue various approaches, including opportunities to use markets, to enhance the cost-effectiveness of, and to promote mitigation actions. Developing countries, especially those with low emitting economies should be provided incentives to continue to develop on a low emission pathway.

我々は、緩和行動の費用対効果を改善し、促進するために、**マーケットの使用を含む**、様々な手法を推し進める。途上国、特に排出量が少ない経済構造を持つ国々は、低排出型の方
向性で発展を継続するよう、インセンティブが与えられるべき
である。



4. NGOが重視したこと ～WWFの例～

5つのポイント

1. 大気にとって「純」削減 (“net atmospheric benefits”)
 - 「途上国での“減”＝先進国での“増”」という構図を超える
 - 「ノールールズ目標」や「クレジットの割引 (discounting)」
2. “ダブル・カウント”を避ける
 - 削減のダブルカウント: 途上国での削減? 途上国での削減?
 - 資金の流れの意味のダブルカウント: 先進国目標達成? 支援?
3. 持続可能な開発への貢献
 - 削減以外の貢献 (コベネフィットを含む)
4. 補完性 (supplementarity) の原則
 - 大部分は国内削減で
5. メカニズムの役割が全体の中で定義される
 - 安価な削減機会収奪の仕組みではないはず



5. 特筆すべき事項

■ 主要国の立場に大きな変化はなし

- EU、NZ、中国、インド、韓国、南アフリカ等の主要な国々の立場に大きな変化はなかった

■ ALBAグループ

- ボリビア、ベネズエラなどのALBAグループ諸国は、メカニズムの活用そのものについて、否定的であった。特に、新しいメカニズムの導入については真っ向から反対。

■ 交渉上の争点間のリンケージ

- CCS、枯渇した森林、標準化されたベースラインは相互にある種の“人質”にされ、サウジアラビア、ブラジル、EUの三つどもえの状態を生み出した

■ 歪んだインセンティブ

- 中国の風力発電問題は、メカニズムが持つ潜在的な難しさを提示



今後の課題

■ どうやって煮詰めるか

- 何が「核となる」議論なのか、絞りきれていない議論の現状
- 1つのラインとしては、「目標の意味を変えるか」どうか
- ただし、「神は細部に宿る」

■ 他の分野との関係をどう整理するか

- 性質上、他の分野との連関は必須
- 先進国削減目標: 補完性、余剰排出枠
- 途上国行動: 求められる削減行動の類型、インセンティブ、MRVのあり方、ダブルカウント問題
- REDD: メカニズムの使用?
- 資金: 「収益の一部」(SoP)問題、ダブルカウント問題

■ 新しいメカニズムは構築可能か

- ALBAグループのように「そもそも」に反対する国もいる

こうした課題がある中で、「健全な」メカニズムは構築可能か？



ご静聴ありがとうございました

関連資料は：<http://www.wwf.or.jp/climate/>
ご質問・ご意見は：yamagishi@wwf.or.jp



パンダは皆様のご支援によって
支えられています

<http://www.wwf.or.jp/join/>
<http://www.wwf.or.jp/lena/index.htm>

for a living planet®